

第25回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ②

「同じ時間、同じ思い」

山田 侑芽

広島県立広島高等学校 1年



私が韓国の魅力として考えていることのひとつが、謙虚な心である。例えば、日本の人は、何か見せたいことがあるとき、「見ていただく」または「ごらんいただく」と言うと思う。これは、「いただく」に「してもらおう」という意味が含まれており、お願いする気持ちを丁寧に表したものだ。それに対し、韓国の人は、よく「お見せする」という言葉を使うと思う。これは、自分がへりくだり、相手を立てる、謙虚な精神の現れである。このような言葉などから私は韓国の人のそういう謙虚な心を知り、そんな心を持った韓国の人と、もっと交流したくなった。それがこのキャンプへの参加動機のひとつであった。

最初、韓国のお友達たちと会ったとき、私の隣にはアヨンがいた。アヨンは授業以外にも、深夜まで日本語の勉強をしたり、たくさん日本のドラマをみたりしているため、日本人のように日本語ができるし、性格もとても明るくて素敵な同い年の友達だった。アヨンと私はすぐに仲良くなれた。

アヨンと一緒にいて感じたのは、楽しむときと、一生懸命に頭を働かせて考えるときの切替えが、はっきりしているということだ。アヨンとたくさん話し、同じ時間を過ごせて、キャンプの間、幸せだった。

事業案を考えるとき、日本語ペラペラのチャンフィさんが、リーダーシップをとっていた。通訳をしながら意見どうしの相違点や、それぞれのポイントを言いながら、たくさん意見を言ってくれていた。そして、目を見てしっかり聞いてくれるし、出てきたどの意見もしっかり褒めてくれていたから、色々な年齢の人が集まっている中、一番年下の私でも、気兼ねせず多くの意見を出すことができた。また、ミゾさんは、出てきたたくさん意見に対し、多角多面的な観点から考え分析し、課題点を見つけ、意見を深めてくれていたので、とても感心した。

たくさん考え方を同時にできるのは、案を考えるときにとっても大切だと感じさせられた。このように、日韓の高校生の違い

よりも、同じところをたくさん見つけられたことや、チームの一人一人のすばらしさを感じることができ、わたしはとても嬉しく思った。

また、メンターさんのスギョンさんは、まるで親戚のお姉さんのように頼もしかった。最初メンターさんとはどういう存在なのか知らなかったのですが、先生のような役割だと思っていた。しかし実際は、私たちのことをよく考え、たくさんのアドバイスをくださり、思っていたより身近な存在でありがたかった。口には出さなくても、いつも私たち一人一人を見てくださっていた。事業案を考えると、スギョンさんからたくさんのアドバイスをいただいた。

最初は広島風お好み焼きの案を考えていたけれど、スギョンさんの、「もっと視点をグローバルにした方がいい」、というアドバイスで、お好み焼きの案から離れることになった。そこからQRコードについての案を進めていったが、ジュンニョンさんとインスンさんが、日本や韓国ではQRコードの利用者数が少ない、というデータを見つけてくださり、それは大きなデメリットだったため、一度、お好み焼きの案に戻った。しかし、世界中の人が使うLINEの会社がほんの数時間前にQRコードの制度を取り入れた、という、リアルタイムなニュースが入った。それは十分に、これから韓国や日本でQRコードの利用者が増えるといってもいい根拠だったので、デメリットは解消し、再びQRコードの案に戻る事となった。

このような流れの中で私は、アイデア

を出すことは自由であるが、それを実現させるには、もととなるしっかりとした証拠が必要で、証拠とアイデアのつながりをどんな人にも分かってもらえるよう、説得する力もとても大切になってくる、という事を学んだ。

私のチームでは、みんなの色々な意見を大切にし、なにか課題にぶつかる度に、みんなで丁寧乗り越えていったように思う。たくさんの時間をかけ、みんなで協力して、納得のいくように進めることができた。また3日目の夜、ほかのチームが寝た後も、私たちのチームはずっと作業を続けていた。それは、きっとみんながポジティブな気持ちで、チームワーク良く作業できたからだと思う。

このような、自分の意見を積極的に述べつつも、相手の意見を尊重していく姿勢こそ、私がキャンプを通して知りたかった、「謙虚な精神」が現れたものだったと感じた。そして結局のところ、その「謙虚な精神」は、韓国の人のみならず、私たちみんなの心の中にある、大切な共通点だと気づかされた。

事業案を考えるとき以外は、みんなとお菓子を食べながらたくさん話して、一人一人のいいところをたくさん発見できて、幸せな時間だった。だから、こうしてキャンプのことを振り返りながら、みんなが一生懸命書いてくれたローリングペーパーや、お土産でもらった大きなお米型クッションを見ていると、とても満たされた気持ちに

なり、胸が温くなるのを感じる。そしてこの文章を書きながら、自然とチームのみんなやキャンプに携われた人々に感謝の気持ちが浮かんでくる。

台風が来て予定が狂ったのに一生懸命私たちが楽しみ、学べるようにキャンプを企画・運営してくださったスタッフの皆さんや、OB・OGの先輩方、本当にありがとうございました。そしてスギョンさん、チーム4「不4鳥」のみんな、心から優しく親切に

してくれて、そして私の意見を一生懸命聞いたり、一緒に楽しい時間を過ごしたりしてくれて、本当に嬉しかったよ！今回のキャンプは、まるで台風のように、あっという間に過ぎ去ったね。でも、「台風一過」の言葉のように、台風が過ぎ去ったら、綺麗な青空がひろがるでしょ？みんなのおかげで、今、私の心は、綺麗な青空です。ありがとう！

「大切な思い出となった僕の初めてのキャンプ」

金 柱勝 (キム・ジュスン)
水城高等学校 3年



2018年7月29日は、初めての日本旅行、初めての飛行機、初めての海外旅行と、僕にとっては「第25回日韓高校生交流キャンプ」への参加だけではなく、様々な意味を持つ日であった。

初日は、期待と楽しみでほとんど眠れなかった。初めての仁川空港は、見ているだけでわくわくしてしまったのに、日本に行ったら、どれだけわくわくさせられてしまうだろうか、期待でいっぱいになった。また、センス溢れるお姉さんみたいなメンター先生や、出発前から仲良くなっていたチ

ームメイトたちのおかげで、心配はなかった。飛行機の遅延には少しショックを受けたけれど、その分、チームメイトたちとより仲良くなれる時間をもらったと思うことにした。

日本に着いた瞬間は、ここが日本だという実感が全くなく、済州島にでも来たような気がした。しかし、街を走っている車や学校で学んだことのある漢字が目に入るとようやく、あ、ここは日本だな、と実感が湧いてきた。旅館に着いたのとき、その光

景はとても幻想的だった。また、生活しながら日本の友達から日本の文化を教えてもらう良い機会になったので、施設は多少不便なところもあったけれど、とても良かった。また日程をこなしていくには全く問題なかった。

広島平和記念資料館で目にした痛々しい歴史と、それと一緒に溶けてしまっている数々の品々、平和講座の講演者が語ってくださったその日の状況など、それが実話ではなく、一編の映画や小説であればいいのにと、思った。本当の意味での平和とは、このようなことが二度と起きないようにすることではないか、とも思った。チームメイトたちと一緒に平和について改めて話し合いながら見回った広島平和公園は、とても暑かったけど、とても有意義な時間を過ごせた。

厳島神社に行けなかったのは、残念だったけれど、工場見学やチームメイトと一緒に討論と発表をする活動はとても楽しかった。一日ではとてもこなせない課題で、夜明けまで徹夜しながらメンバーの間で言い争いがあったり、涙を流したりもした。

団体生活だったため自由にコンビニに行けなかったり、僕にとって日本の食事がしょっぱかったり甘かったりしたのは、少し残念だったけれど、会場の旅館で過ごしながら参加者たちと仲良くなれる機会がいっぱい企画されている素敵なプログラムだったと思う。

今でも連絡をとりあえる友達が作れたこのキャンプは、私の初めての海外旅行を本当に素敵なものにしてくれた最高のチャンスだった。

「かけがえのない出逢い」



市川 凜佳
群馬県立高崎女子高等学校 3年

写真を見ると、キャンプの一瞬一瞬がフラッシュバックする。キャンプ中の時間が色鮮やかに脳裏に焼き付いていて、“思い出”として捉えるのにはもう少し時間がか

かりそうだ。

このキャンプへの参加が決まってから、私は韓国の学生と少しでも韓国語でコミュ

ニケーションをとってみたいと思い、時間があれば韓国語の文法書やフレーズ集を眺めていた。こうして心待ちにしていたキャンプ初日。

あいにく日本には台風 12 号が接近していた。私は前日から何度も天気予報と飛行機の運行情報を確認した。ここまで天候を恨んだのは初めてだったかもしれない。韓国からの飛行機が欠航にならず遅延ですんだのは不幸中の幸いだった。そんな幸先が良いとは言い難いキャンプの始まりだったが、始まってみると悪天候だったことを忘れるほど、中身の濃い時間となった。

最もキャンプで印象に残っているのは、日韓学生との出逢いだった。最初は緊張のあまりチームのみんなの表情は固かったが、寝食を共にするなかですぐに打ち解けることができた。ここですぐ打ち解けることができたのは、多くの韓国の学生が日本語を話せたおかげだった。私が少し韓国語を勉強したのとは比にならないほど、みんな日本語が上手だった。同世代にも関わらず、外国語である日本語を流暢に話す姿に感心するとともに、悔しかった。私もこれから彼女たちみたいに韓国語や英語を話せるようにさらに頑張りたい。

チームの事業案では意見が合わず揉めてしまったりしたけれど、意見を言い合えるだけ仲良くなれたということだろう。また韓国の学生と話すなかで、もともと好きだった韓国がさらに好きになった。

受験が終わったら韓国に行く、とキャンプから帰ってすぐ母と約束した。韓国はも

ちろん、日本各地の同世代の学生と出逢う機会はなかなかない。キャンプに参加できたおかげで日韓の学生に出逢えて、本当にありがたく思う。このかけがえのない出逢いをずっと大切にしたい。

正直、初めは受験生の夏休みにこのキャンプに参加することに対する躊躇いや罪悪感があった。しかし、今は心の底から参加して良かったと思う。日韓の学生から、ただ机に向かっているだけでは絶対に得られない良い刺激をたくさん受けた。また、自分より優秀な学生を見ていて、私も勉強して追いつきたいという勉強のモチベーションにもなった。内向きになりがちな受験生の今だからこそ、こうして普段と異なる広い世界を経験することができたことが力になった。

日本と韓国は政治的に友好的とは言えない関係が続いている。それでも、人と人の繋がりは友好関係を築くことができると改めて感じた。このキャンプのような、人と人との友好関係が、いつか政治面での友好にも繋がってほしいと願っている。

このような素敵な日韓高校生交流キャンプを主催してくださった日韓経済協会・韓日経済協会の皆様、運営してくださったスタッフの皆様、メンターの方々、そして出逢った日韓学生みんなに感謝しています。ありがとうございました。そして 5 チームのみんな大好き！また必ず会いましょう！

